

ひかりのこ

1・2月園便り

認定こども園
聖ミエル幼稚園
2023年1月19日

月主題：つたえあう、響きあって

皆様、新年あけましておめでとうございます。
12月末には、学校評価アンケートのご回答、ありがとうございました。

様々な参考になるご意見をいただきました。今後の園運営に役立てさせていただきます。

中には、「いつも先生方が統一された信条のもと関わってくださいます。おそらく、園長先生やリーダーシップをとる先生方の保育理念がきちんと浸透している園なのだと思います。」というお言葉がありました。私たちの統一した信条の一番は、「キリスト教保育」を行おう、ということです。イエス様が、誰よりも子どもたちを大切にされたように私たちもその御跡をたどろう、という信条です。イエス様のようにはなかなかいかないのですが、それが一つの大きな柱となっています。

また、「色々書かせていただきましたが、これから過ごす子どもたちにさらに良い日々を送ってほしい思いで書かせていただきました。」というお言葉もあり、「ミカエル愛」を感じました。本当に、ミカエルの保護者の皆様は、温かいなあ、と感じます。そして、たくさん保護者の皆様が、卒園後も、幼稚園と教会が行う取り組みに参加してくださいませ。

12月の日曜学校クリスマス会には、なんと63名の親子が参加してくださいました。1月の教会のお餅つきには50名近い親子が参加してくださいました。

いつでも、いつまでもつながっていられるのがミカエルの良さです。

アンケートの結果の公表は、来年度のホームページ上となりますが、保護者の皆様に守られながら幼稚園が運営されていることに感謝しております。これからもどうぞよろしく願いいたします。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「卒園証書」

この世界で、わずか70人ほど、私の名前で出された卒園証書を受け取った方たちがいます。15年前、私は釧路の保育園の園長を命じられ、後任が決まるまで3年間、園長を務めました。突然の上に、専門的な知識もなく、育児経験もない、ただ岩見沢の幼稚園でチャプレンをしていただけの、全くの素人です。先生たちの困惑ぶりが手に取るように分かります。私は途方に暮れ、考えた末に先生たちに伝えました。保育のことは報告は受けるが、すべて主任と先生たちに任せること、どんな小さな意見や要望も園長は必ず聞くこと、そして、保育の中で起こったことは、すべて園長が責任を負う、だから最大限の力を発揮して欲しいと。怒濤の日々が始まりました。

事務では、保育園は膨大な量の書類を役所に提出します。その内容もちんぷんかんぷん。子育てが上手いかか、涙ながらに相談に来たお母さんに適格なアドバイスもできず、一緒に涙ぐむことしかできない情けない園長でした。

こんな感じで保育の現場では役に立たないので、せめて先生の負担を軽くしようと、3歳以上児のクラスで、日替わりで給食の配膳に加わり、子どもたちと一緒に給食を食べることにしました。ある日のこと、食べ終わって後片付けをしていると、一人の子が何か言ったように近づいてきて、私とその子の顔に耳を近づけると、「せんせい、だいすき」といって、びよんびよん跳ねながら戻って行きました。私は、もうここで死んでもいいと思いました。先生も、園長も、何のために苦勞をしているのか、すべてが分かった気がしました。この言葉は、保育者なら誰でも心で受け止めたことがあるはずで、3学期になり卒園式が近づいてきました。卒園する子どもたちに渡される卒園証書は、先生もあなたのことが大好きだよ、というメッセージが込められています。たった一枚の紙の中に、ここで過ごした子どもたちと先生たちの、魂の交流のすべてが詰まっているのです。

チャプレン 司祭 下澤 昌